

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：一般社団法人MIT

活動地域：対馬

活動におけるテーマ・キャッチコピー

「自立と循環の宝のしま」を目指して

百花蜜がたくさん採れる豊かな森を取り戻そう！

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

【ビジョン】

人の暮らしの豊かさ向上と森林生態系の保全

全島展開

地域循環共生圏
づくりプラットフォーム事業
全体の企画・統括

モデル地域での実践

目的：地域経済の好循環
と森林生態系の回復

【森林資源活用・
保全プロジェクト】

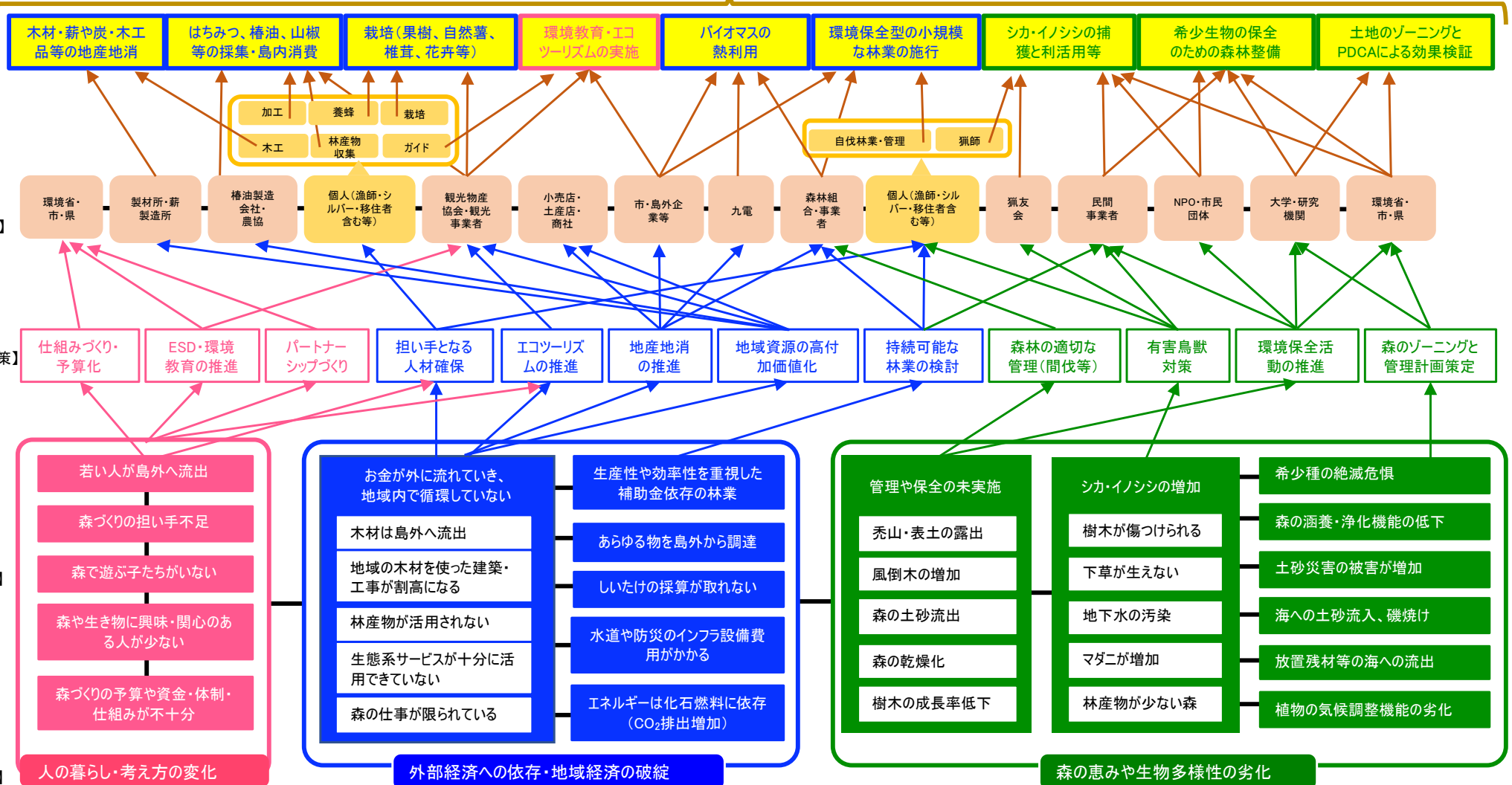
一般社団法人
MIT

【人的
資源】

【解決策】

【課題】

【現状】



自然から離れたライフスタイル
自然への理解・関心が低い
自然を利益追求のみに価値を見出す
自然に関わる仕事を希望する人が少ない

島外から安いもの・便利なもの・質の高いものを購入
対馬のものは、島外の経済圏に販売・提供
生産性・効率を高めた林業しか成り立たない

人が自然を放置しているまたは酷使している（保全・管理しない）
生態系サービスの向上や生物多様性保全が進まない

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

意見交換会の開催



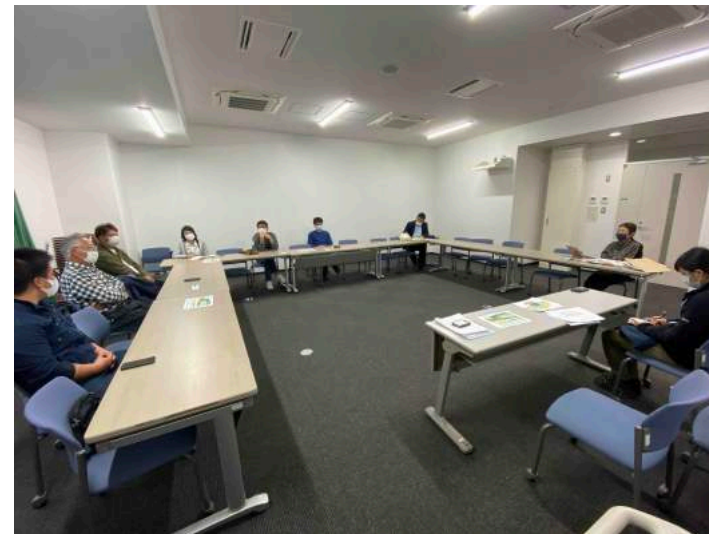
先進地の視察(屋久島・八女)



ステークホルダー候補へのヒアリング



木材事業組合



九州大学・上対馬漁師



森林組合・林業公社、各事業者

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

対馬の森の現状の確認と、自伐林家との交流、モデル林候補の特定と現地確認



内山地区の皆伐現場視察



対馬の自伐林家の現場視察



モデル林候補の現地確認



現場視察の対応



ナショナルトラストの森の現場踏査



専門家の招聘と現場視察

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

漁師や地域おこし人材などを集めた林業研修会の開催



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

森の恵みツーリズム・SDGsスタディーツアーの実施（収穫祭）

ゆず生産者



原木しいたけ生産者



はちみつ生産者



ゆず胡椒体験の開催



椎茸摘み体験の開催



蜂蜜採集体験の開催



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

対馬での地域循環共生圏構築に向けて
最優先で取り組みたい課題(ボトムアップ)が整理できた

場づくり

多様な主体が
活動できる
持続可能な
モデル林づくり



人づくり

小規模林業及び
有害鳥獣対策等
の人材確保と育成



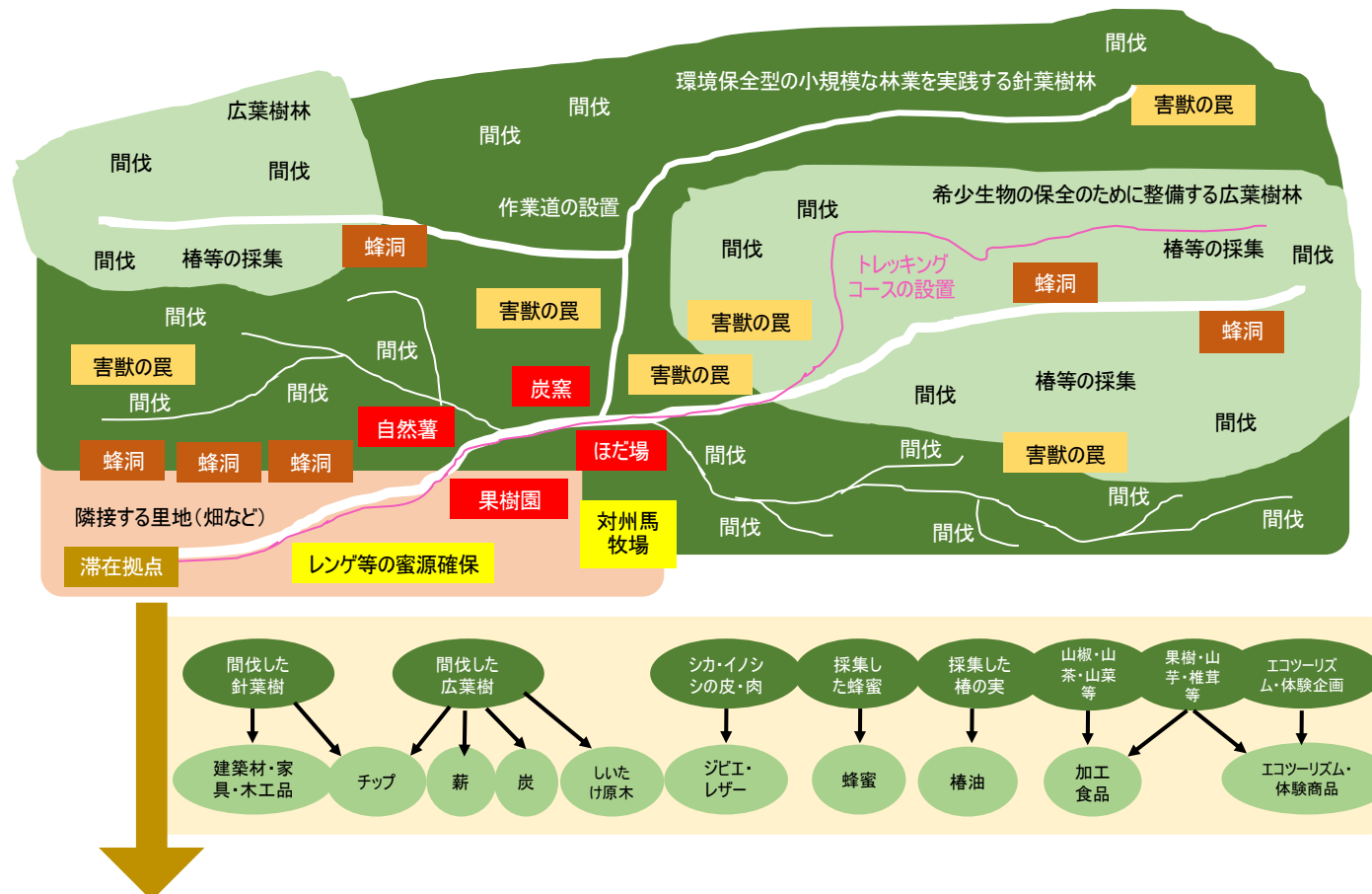
もの・ことづくり

多様な森林資源
の高付加価値化
に向けたビジネス
モデルの構築



地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	多様な主体が活動できる持続可能なモデル林づくり（場づくり）		
	概要	地域経済の好循環と森林生態系の改善に資する事業計画を持つ事業者・担い手が連携して森づくり・なりわいづくりを進めることができる森林を増やしていくために、まずは、小規模のモデル林を選定して実証実験を行う。		
	課題・ボトルネック	モデル林の選定と土地所有者からの森林の管理や活用の関係性の構築。そのための資金と人材確保。	力を借りたい人物・企業像	土地を提供してくれる方。モデル林の管理・運営を行うコーディネーター（地域おこし協力隊を想定）。



商品化し、販売し、生産者や事業者が、森づくりを行いながら、持続的に設ける仕組みを構築

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

2	事業名	小規模林業及び有害鳥獣対策等の人材の確保と育成（人づくり）		
	概要	森は海の恋人と言われるように、ヤマネコの生息地としても適した健全な森を作ること、海の豊かさを取り戻すという視点に立ち、小規模林業及び有害鳥獣対策に関わる事業を推進するための人材の確保と育成を行う。ターゲットは、副業を行う漁師や地域おこし人材などである。		
	課題・ボトルネック	漁師が地域づくり人材への研修や安全面の確保、土地所有者との調整、森林組合との連携など。森づくりへの参入に向けた意識啓発や副業補助制度の導入。	力を借りたい人物・企業像	対馬市役所や長崎県庁の林業担当者や水産担当者（担当課を超えた横断的連携）。猟友会などの有害鳥獣の捕獲団体、島外の自伐林業家（アドバイザー）

対馬市島おこし協働隊自然共生チャレンジャー（2021年4月～2名内定）が移住予定



地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

3	事業名	多様な森林資源の高付加価値化に向けたビジネスモデルの構築（こと・ものづくり）		
	概要	持続可能な森づくりにおいて森林資源の出口を確保することが大事であり、特に、資源の高付加価値化していくことがポイント。多様な森林資源を有効活用するためのビジネスモデルを関係者と構築し、具体的な事業を展開し、地域経済を回す原動力を創出する。		
	課題・ボトルネック	熱い思いを持った事業者の確保とビジネスとして事業化できる企画力と経営力	力を借りたい人物・企業像	新規事業を立ち上げるにあたっては、対馬市の補助制度などを活用していきたいし、金融機関からの融資などを受けていき、設備投資を行う。個別具体的な事業についてパートナーや販売先も必要。

例) 木材事業組合との連携



つしまもりびと / エッセンシャルオイルシリーズ

つしまもりびとの企画の1つとしての
エッセンシャルオイルシリーズの商品開発。
商品名はシンプルにそのまま
「対馬ヒノキの精油」

対馬をイメージするような
青緑をメインカラー



エッセンシャルオイル



エッセンシャルオイルスプレー



その他、ゆず農家や対馬グリーンブルーツリズム協会との連携

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 森づくりに興味関心のある人は多いが、現在対馬で森づくりに関わっている人材や事業は非常に少ない。
- 対馬の森林資源の潜在的な価値は非常に大きく、それをみつけ、いかし、つなぐことが大事

地域のコンセプトを描く！

- 対馬は昔から農林水産業をなりわいとし、家族単位・集落単位での兼業
- グローバル化・経済至上主義によりその暮らしが成立不可能に。
- 今後は、環境と社会の豊かさの価値を見出して、対馬の豊かさを再定義し、対馬らしい暮らし方、働き方、生き方を地域内で再構築する！

事業のストーリーを語る！

- 地域内での経済循環に向けて、自伐型林業の展開（副業）や地域で森林資源を活用する（高付加価値化）。それを実行できる場所と人を確保していく
- ボトムアップで積み上げながら、トップダウン（行政）による仕組みで全島展開

地域の目標を立てる！

- マンダラを関係者に共有し森づくりに関わる人を増やしていく。
- 自然共生社会・地域循環社会のモデル先進地に対馬がなっていけると確信を持った。

中長期的・全島的な展開に向けた課題

- **行政（市と長崎県）の職員をいかに巻き込んでいくか**
 - 具体的な事業展開の中での対話と参画、協力の依頼
 - 横断的な動きを作り出すための情報共有の徹底（MITが横串刺す）
- **対馬の森のゾーニングと管理者の再分配の仕組みが必要**
 - GIS上での一元的な地理的情報の管理（環境省との連携）
 - 対馬市の森づくり計画（2年後改定）に合わせたゾーニングの検討
 - 自伐型林業や森林資源を用いた事業展開に向けた場所の特定と資源量把握
- **優先的に取り組むべき課題の整理と中長期計画の策定**
 - 優先的かつボトムアップでできること（次ページ参照）を進めること
 - 多様な主体と連携した具体的な森づくりの事業計画の策定

今後の展望

① MIT中心に短期的・優先的かつボトムアップで現場でできること

1) 場づくり：多様な主体が活動できる持続可能なモデル林づくり

→事業計画の策定、ナショナルトラストの森の指定管理、多様な主体による活動展開

2) 人づくり：小規模林業及び有害鳥獣対策等の人材の確保と育成

→地域おこし協力隊や漁師等による小規模林業や有害鳥獣対策の試験的实施

3) こと・ものづくり：多様な森林資源の高付加価値化-ビジネスモデルの構築

→事業者とMITとの連携による林産物の商品化や環境教育のメニュー化

上記を進めるためのステークホルダーダイアログの定期的な開催

② 行政を巻き込んだ中長期的な展望

行政の巻き込み、森のゾーニングと再配分、中長期的な事業計画の策定

→ボトムアップでの展開をモデルに、全島展開（地域循環共生の仕組みづくり）